

専念寺通信

三月号 (NO. 127)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



だんだん春めいてまいりました。今年
は雪が降ったり、みぞれが降ったり、気
温差の大きい春のはじめでした。みなさ
ま、おかわりなくお過ごしですか。

☆ 春の彼岸

3月17日から23日までが春の彼岸で
す。3月20日の彼岸のお中日、太陽は
真東からのぼり、真西にしずみます。沈む日を見ながら、西方十萬億浄土に
ある極楽浄土を思い描き、安楽国への往生を祈願します。いつの日か彼岸に
到ることができるようにと、心を静かにして祈るのです。春の彼岸は、お中
日(春分の日)を境にして、夜より昼の時間が長くなり、春から夏へと季節
の変わっていく時期にあたります。春秋の彼岸という仏教行事のなりたちは、
日本の農耕文化と密接な関係があったようです。

☆ 六波羅蜜 (ろっぱらみつ・ろくはらみつ)

「到彼岸」を意味するパーラミターはそのまま音訳されて「波羅蜜」とい
う語になりました。意味は、彼岸に到ること、完成すること、理想を達成す
ること、です。お彼岸の時期は
この六波羅蜜と呼ばれる徳目を
思い起こし、みずからの生きる
姿勢をととのえる、といういわ
ば仏道の実践機関としてとらえ
ることができます。

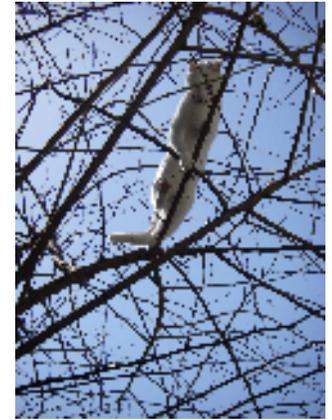
六波羅蜜とは、次の六つの徳
目です。

- 1) 布施: ふせ: 与えること。
財施 (ものを施す)・法

施 (真理を施す)

無畏施 (恐怖をとりのぞき
安心を施す) の三種の布施。

- 2) 持戒: じかい: 戒律を守ること。
- 3) 忍辱: にんにく: 苦難に耐え忍ぶこと。
- 4) 精進: しょうじん: 真実の道をたゆまず
実践すること。
- 5) 禪定: ぜんじょう: 精神を統一して安定
させること。
- 6) 智慧: ちえ: 真実の智慧を得ること。



日々の暮らしのなかで、これらの徳目を実行することは、とても難しい気
がします。このうちのひとつでも、お彼岸の期間中に実践しようところ
がけてみませんか? 850年前には、六波羅蜜以外にも無数の厳しい戒律が存
在しましたが、法然上人は『選択集』の中で、「戒律を守れないとしても、弱
い自分を見とめ、力の至らない愚かな自分を謙虚にみとめ、仏の慈悲を信
じて生きよ。」と語っています。あきらめでなく、自分が無力かもしれないと
試みてみることで、そこから出発することは、むしろ大きな目で見ると、難問を
突破する底力になるかもしれません。

☆ 発展と幸せ

日本は1945年の敗戦後、猛烈な勢いで経済や、土木、建築、医学、教育、
多くの面で発達を遂げました。米国の庇護のもと(という言葉にはかなり違
和感もありますが)とはいえ、この発達と回復の速度は他国に例を見ないも
のだと言えましょう。そして21世紀に入って、天皇が代わり平成となり、
はや23年がたち、日本は押しも押されもせぬ「経済大国」と呼ばれるよう
になりました。けれど、ひとりひとりの「しあわせ感」はどうなのでしょう
か。ここまで発達していなかった1965年から70年頃、私たちは不幸せ
だと感じていたのでしょうか。それぞれの家にテレビが一台あり、冷蔵庫、洗
濯機があり、自動車のある家とない家があり、冷暖房もそれぞれが工夫して、
人々の中には少しの競争とゆるしがあり、町にスーパー・マーケットはまだ
なくて、魚屋さんや八百屋さんのおじさんとおしゃべりしながらちょっとま
けてもらったり、それでも少なくとも全体に「不幸」ではありませんでした。
発展し過ぎの不幸が存在するのではないかと、ふと思えます。

平成23年3月1日 大黒

